

空港を生かしたまちづくりを推進する



8年後の 目指す姿

充実した騒音対策が実施され、C滑走路の整備をはじめとした成田空港の更なる機能強化が図られています。また、国家戦略特区における規制緩和などにより、成田国際空港を中心として人や物の移動が円滑化し、空港と関連性の強い産業の強化と空港周辺への先端産業の集積が図られ、空港を生かしたまちづくりが実現しています。

4年間の 取組方針

成田空港の更なる機能強化や広域道路ネットワークを生かした、物流・空港関連産業の集積や、国家戦略特区を活用した先端産業の集積など、空港と周辺地域が持つポテンシャルを十分に活用したまちづくりを進めるとともに、成田空港の更なる機能強化に伴う人口増加に適切に対応するため、新たな都市基盤整備の取組みを積極的に推進します。また、MICEの誘致を図るとともに、民間活力によるMICE施設の建設を促進します。

まちづくり指標

指標名	実績値 平成26年度 (2014)	実績値 平成30年度 (2018)	目標値 令和5年度 (2023)	目標値 令和9年度 (2027)
MICE開催件数	5件	12件	15件	17件
先端産業集積件数(延べ件数)【重点指標】	0件	0件	1件	3件

現状と課題

空港が持つポテンシャルを最大限に生かすため、本市では、空港周辺への医療関連産業の集積やMICE施設の誘致など空港を活用したまちづくりを進めています。

成田空港の更なる機能強化は、国際競争力の強化や空港利用者の利便性向上につながるだけでなく、物流・空港関連産業の集積などによる空港周辺地域の活性化や雇用の場の拡大など、地域経済の発展への大きな効果が期待できます。また、国際医療福祉大学成田病院の開院に伴う医療関連産業などの集積や、新生成田市場の開場に伴う流通・貿易産業などの進出も期待されています。

このような中、本市の人口は今後も増加が続いていくと見込まれており、新たな開発需要と人口増加に適切に対応するための受け皿として、都市機能や住環境等の基盤整備を早期に実現することが求められています。

また、空港を擁する本市の強みや特性を生かし、MICEの誘致と民間によるMICE施設の建設の促進により、地域経済の活性化を図っていく必要があります。

一方、成田空港の更なる機能強化に伴い、令和元(2019)年10月より実施されたA滑走路における夜間飛行制限の変更や今後実施される年間発着容量の拡大等により、航空機の年間発着回数の更なる増加が見込まれることから、より一層の騒音対策の充実を図り、空港を生かしたまちづくりの実現に向けた取組みが求められています。

施策の方向

1 空港周辺への先端産業の誘致に努めます。

空港周辺における物流・空港関連産業などの企業誘致の促進や、国家戦略特区による規制緩和などを活用した国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業の集積に取り組むとともに、新たな都市基盤整備を積極的に推進します。

主な事業…国家戦略特区推進事業（再掲）、産業集積推進事業、まちづくり戦略推進事業、吉倉地区周辺まちづくり事業

2 MICE誘致や民間活力によるMICE施設の建設を促進します。

空港周辺のMICE受入れ体制を充実させ、様々な形態のMICEの誘致を推進するとともに、国際展示場、国際会議場などを備えた民間活力によるMICE施設の建設を促進します。

主な事業…国際観光振興事業、国家戦略特区推進事業（再掲）

3 騒音対策の充実を図りつつ、成田空港の更なる機能強化に向けた取組みを進めます。

関係機関と連携し、住宅防音工事への補助など騒音対策の一層の充実を図るとともに、C滑走路の整備をはじめとした成田空港の更なる機能強化に向けた取組みを進めます。

主な事業…民家防音家屋等維持管理費補助事業（再掲）、都市計画決定日後住宅空気調和機器設置工事補助事業（再掲）、成田空港周辺地域共生財団支援事業（再掲）

市民の役割・行政の役割



市民の役割

- 国家戦略特区の指定など市を取り巻く環境の認知



行政の役割

- 規制緩和実現に向けた関係機関との協議
- 成田空港の更なる機能強化への取組み
- 騒音対策の充実



4-1-2

第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

▶ 4-1 空港を生かした活気あふれるまちづくり

空港を活用し新たな成田の魅力を発信する



8年後の 目指す姿

国内外の多くのスポーツイベントや国際大会の事前キャンプが市内で行われているなど、スポーツツーリズムが推進されています。また、成田ブランドが確立され、成田国際空港を核とした観光施策により、国内外から多くの観光客が訪れています。

4年間の 取組方針

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、事前キャンプの受入れをはじめ、聖火リレーやホストタウン関連イベントなどを実施するとともに、その後も成田国際空港を擁する本市の特性を生かし、国内外のスポーツイベントや事前キャンプ等を積極的に誘致します。また、訪日外国人旅行者やLCCを利用する国内旅行者などをターゲットに、成田の魅力を発信し、成田ブランドの一層の推進を図ります。

まちづくり指標

指標名	実績値 平成26年度 (2014)	実績値 平成30年度 (2018)	目標値 令和5年度 (2023)	目標値 令和9年度 (2027)
誘致したスポーツ大会等の 参加者数【重点指標】	1,284人	13,782人	14,000人	15,000人
観光入込客数【重点指標】	1,402万人	1,590万人	1,700万人	1,800万人

現状と課題

新しい成田の魅力を発信するため、本市では、スポーツツーリズムの推進や成田の知名度向上に向けた戦略的な情報発信を実施しています。

訪日外国人旅行者が増加する中、本市においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催などを絶好の機会と捉え、成田市スポーツツーリズム推進戦略や観光基本戦略に基づき、スポーツツーリズムの推進や観光客誘致のための成田の魅力発信を積極的に行っており、本市の観光資源の更なる活用や持続可能な受入れ体制整備などの推進を図っていくことが必要となります。

また、成田国際空港や新生成田市場を活用した国内外への戦略的な情報発信により、成田の更なる知名度の向上が求められます。

施策の方向

1 スポーツツーリズムを推進します。

市民のスポーツに対する関心を高め、関係団体などと連携を図り、大規模なスポーツイベントや事前キャンプ等の誘致に取り組むなど、更なるスポーツツーリズムの推進を図ります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして高まったスポーツへの関心や機運、おもてなしの心などを生かした本市ならではの魅力的な地域資源を有効活用するとともに、共生社会ホストタウンとして、パラアスリートとの交流やパラスポーツイベントの開催などに積極的に取り組みます。

主な事業…スポーツツーリズム推進事業、各種競技大会誘致事業（再掲）

2 国内外での成田の知名度向上を図ります。

国内外の多くの人々が行き交う成田空港の更なる機能強化等を好機と捉え、戦略的かつ効果的な情報発信を行うことにより成田の魅力をPRし、知名度の更なる向上を図ります。また、空港隣接地へ移転再整備する卸売市場において、地域の特産物や農水産物、和食文化のPRを行うとともに、世界に日本の農水産物等の美味しさを提供する輸出拠点機能を整備することで、成田の知名度向上を図ります。

主な事業…観光に関する経費、観光PR事業、成田ブランド推進戦略事業、卸売市場施設整備事業、輸出促進事業

市民の役割・行政の役割



市民の役割

- スポーツイベントへの積極的な参加
- 競技大会の観戦
- 成田の魅力の市外への情報発信



行政の役割

- スポーツツーリズムの推進
- 成田ブランドの推進

関連する個別計画

第2次成田市生涯スポーツマスタープラン、成田市スポーツツーリズム推進戦略、成田市観光振興基本計画、成田市公設地方卸売市場経営展望



▶ 4-2 魅力ある機能的なまちづくり

4-2-1

地域特性を生かした土地利用と快適な市街地形成を図る



8年後の
目指す姿

秩序ある効率的なまちづくりが行われ、快適でにぎわいのある市街地の形成と地域の個性を生かした土地利用により、調和のとれた街並みの整備が進み、暮らしやすいまちが広がっています。

4年間の
取組方針

「成田らしさ」を生かした、にぎわいやおもてなしの空間を持った魅力あるまちづくりを進めるとともに、誰もが安心して暮らしやすい市街地の形成に努めます。また、(仮称)吉倉駅や大学病院を核として、地域特性を生かしたまちづくりを推進します。

まちづくり指標

指標名	実績値 平成26年度 (2014)	実績値 平成30年度 (2018)	目標値 令和5年度 (2023)	目標値 令和9年度 (2027)
市域全体のうち市街地内の 新築建築物割合	77.7%	83.7%	85.0%	87.0%
地区計画の決定数	11地区	14地区	17地区	19地区

現状と課題

市民が暮らしやすく、調和のとれた街並みを整備するため、本市では、土地利用の適正化に取り組んでいます。

本市を取り巻く社会経済環境が大きく変貌を遂げる中、持続的な発展を続けるために、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えのもと、都市計画マスタープランや立地適正化計画を策定し、中心市街地等の都市機能の充実や地域特性を生かした土地利用の推進を図っています。

今後も本市全体の人口は増加していくことが見込まれるものの、地域によっては人口減少と高齢化が進行しており、中心市街地などの拠点となる地域の都市機能の充実や、各地域を結ぶ公共交通ネットワークの活用により、互いの地域が補完し合う相互補完型のまちづくりを推進することが求められています。

また、成田空港の更なる機能強化や国際医療福祉大学成田病院の開院などに伴い、(仮称)吉倉駅を中心とした新たなまちづくりを推進し、地域特性を生かした土地利用を図るとともに、にぎわいのある快適な市街地の形成を図るための取組みを推進していく必要があります。

施策の方向

1 秩序ある効率的なまちづくりを推進します。

都市機能の集約化や居住の誘導を図ることで、秩序ある効率的な土地利用を推進します。また、新たな産業集積拠点の形成や国際医療福祉大学成田病院、(仮称)吉倉駅などの拠点施設を中心とした新たなまちづくりにおいて、土地区画整理事業や地区計画などの活用により、地域特性を生かした土地利用を推進します。

主な事業…都市計画策定事業、(仮称)不動ヶ岡土地区画整理事業、まちづくり戦略推進事業(再掲)、吉倉地区周辺まちづくり事業(再掲)

2 にぎわいのある快適な市街地を整備します。

京成成田駅参道口地区の整備を推進するとともに、JR成田駅西口地区について、官民連携による市有地の高度利用及びバリアフリー化を図ります。また、表参道周辺について、景観形成重点地区としてふさわしい門前の町並み景観の保全・形成を図ります。

主な事業…JR・京成成田駅参道口地区整備事業、JR成田駅西口市有地活用推進事業、表参道整備事業、景観計画推進事業(再掲)

市民の役割・行政の役割



市民の役割

- 土地利用の適正化への理解・協力
- 建築行為や開発行為に係る指導の順守
- 地域でのまちづくり活動への積極的な参加



行政の役割

- 適切な土地利用の誘導
- 地域でのまちづくり活動への支援
- 市街地のにぎわい形成

関連する個別計画

成田市都市計画マスタープラン、成田市立地適正化計画、成田国際空港周辺土地利用ビジョン、市街化調整区域における土地利用方針、非線引き都市計画区域における土地利用方針、成田市景観計画



▶ 4-2 魅力ある機能的なまちづくり

4-2-2

道路ネットワークと交通環境を整える



8年後の
目指す姿

主要幹線道路網の整備により、良好な道路空間が提供されています。また、官民が連携したバス交通の更なる機能強化や鉄道の利便性の向上により、公共交通ネットワークが充実し、市内外の交通アクセスが向上しています。

4年間の
取組方針

「成田市幹線道路網整備計画」に基づき、成田空港の更なる機能強化を見据えた幹線道路の整備を推進していくとともに、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づいて、橋りょうの計画的な修繕工事を実施します。また、市内の交通利便性の向上を図るため、「地域公共交通網形成計画」を策定し、持続可能な公共交通網の構築を目指します。

まちづくり指標

指標名	実績値 平成26年度 (2014)	実績値 平成30年度 (2018)	目標値 令和5年度 (2023)	目標値 令和9年度 (2027)
幹線道路 整備完了路線数 (H28～)	-	3路線	14路線	23路線
コミュニティバスの利用者数	231,003人	224,659人	240,000人	252,000人
橋りょう長寿命化 修繕工事実施数	6橋	52橋	102橋	145橋

現状と課題

市内外の交通アクセスの向上を図るため、本市では、主要幹線道路や生活道路の計画的な整備を図るとともに、道路施設の適切な維持管理や長寿命化計画に基づく橋りょうの点検や修繕を実施し、安全性の確保に努めています。

成田空港の更なる機能強化に伴い、空港周辺における交通アクセスの向上を図るため、東関道や圏央道、北千葉道路などの広域道路ネットワークと連携した道路整備が求められています。

また、コミュニティバスを含めた公共交通については、地域公共交通網形成計画を策定し、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築していく必要があります。

さらに、公共交通事業者との協議、連携を引き続き行っていくことにより、市民の交通利便性の更なる向上に努めるとともに、新たな都市基盤整備に向けた鉄道構想駅の実現の必要性が高まっています。

施策の方向

1 主要幹線道路及び生活道路の整備を進めます。

骨格となる幹線道路の機能強化のため主要幹線道路の整備を進めるとともに、生活基盤の充実を図るため市民生活を支える道路整備を推進します。また、成田空港の更なる機能強化に伴い、空港周辺における交通アクセスの向上に努めます。

主な事業…幹線道路整備事業、生活道路整備事業

2 公共交通の利便性向上を図ります。

市民の更なる交通利便性の向上を図るため、コミュニティバスの運行の改善に努めるとともに、民間路線バスの運行支援を行います。また、「地域公共交通網形成計画」を策定し、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築を図ります。

主な事業…コミュニティバス運行事業、路線バス運行支援事業、公共交通計画策定事業

3 道路施設の適切な維持管理に努めます。

道路の適切な維持管理に努めるとともに、橋りょうについて計画的かつ予防的に補修を行います。また、街路灯について維持費の低減や低炭素化が見込まれるLED照明への更新を実施します。

主な事業…道路施設等管理事業、市道維持修繕事業、道路等補修事業、橋りょう補修事業

4 鉄道の安全性や、市民の利便性の向上を促進します。

市民が利用しやすいダイヤへの改正や駅舎の改修、バリアフリー化の推進など、鉄道の利便性の向上に向けて、鉄道事業者に対し要望活動などを行います。また、(仮称)土屋駅及び(仮称)吉倉駅の実現に向けた取組みを進めます。

主な事業…鉄道計画推進に関する経費、芝山鉄道補助事業、まちづくり戦略推進事業（再掲）

市民の役割・行政の役割

市民の役割

- 道路の破損・不良箇所についての連絡
- 積極的な公共交通機関の利用

行政の役割

- 道路整備の推進
- 道路の安全性の確保
- 公共交通機関の利便性の向上への取組み

関連する個別計画

成田市幹線道路網整備計画、成田市橋梁長寿命化修繕計画、成田市地域公共交通網形成計画



▶ 4-2 魅力ある機能的なまちづくり

4-2-3

大学を活用したまちづくりを推進する



**8年後の
目指す姿**

誘致により市内に大学が開設されたことで、にぎわいのあるまちが実現しています。また、市内で大学の専門的な知見を得ることができるようになり、市民の保健・医療・福祉への意識が向上しています。さらに、吉倉地区周辺においては、附属病院を核としたまちづくりが進み、医療関連産業の集積などにより、まちの活性化が図られています。

**4年間の
取組方針**

国際医療福祉大学との連携体制の充実を図り、保健・医療・福祉の複数分野にまたがる専門的な知識や技術、人材をまちづくりに積極的に活用します。また、附属病院と連携した医療関連産業の集積などを通して、新たな都市基盤整備を積極的に推進します。

まちづくり指標

指標名	実績値 平成26年度 (2014)	実績値 平成30年度 (2018)	目標値 令和5年度 (2023)	目標値 令和9年度 (2027)
国際医療福祉大学との 連携事業数	0	32	40	50

現状と課題

国際医療福祉大学の開学により、本市では、大学の専門的な知見や人材などを活用したまちづくりを推進しています。

本市と大学とは、保健・医療・福祉の分野をはじめ様々な分野において連携協力を行い、地域との交流やまちの活性化に向けた取組みを進めており、今後も、大学の持つ専門的な知識や技術、人材などを最大限活用し、市民の健康増進や知見の向上、地域の活性化などを図っていく必要があります。

また、国際医療福祉大学成田病院の開院に伴い、附属病院を核とした医療関連産業の集積等に伴う都市機能や住環境の整備など、吉倉地区周辺における新たな都市基盤整備に向けた取組みを積極的に推進し、魅力的で活気あふれるまちづくりの実現が求められます。

施策の方向

1 大学との連携を図ります。

国際医療福祉大学との連携について、地域医療や救急救命医療体制の充実、高齢化社会への対応など、多分野にわたる協力関係の確立に努めます。

主な事業…国家戦略特区推進事業（再掲）

2 附属病院を核としたまちづくりを推進します。

国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業の集積等に伴う都市機能や住環境を整備するため、吉倉地区周辺への新たなまちづくりを積極的に推進します。

主な事業…まちづくり戦略推進事業（再掲）、吉倉地区周辺まちづくり事業（再掲）

市民の役割・行政の役割

市民の役割

- 大学連携への理解と連携事業への積極的な参加

行政の役割

- 大学との連携協力体制の確立
- 大学との連携事業の実施

